

なんでも相談会 & インボイス制度個別相談会

要予約 TEL 03-3986-2471

3月のなんでも相談会は、税務・経営相談が26日(水)、法律相談が27日(木)です。ともに13時30分~15時30分まで(予約は15時まで)。30分刻みで要予約。顧問税理士、弁護士が相談に応じます。インボイス制度個別相談会は19日(水)、26日(水)10時~16時。45分刻みで要予約。定額減税制度の相談も受け付け。



(購読料は組合費の中に含まれています)

定価三十円

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋 5-22-15
電話 豊島 (3986) 2471
北 (5390) 6021
板橋 (3963) 5325
練馬 (3825) 5522
発行人 寺島 耕平
発行予定日 毎月4回
1日、9日、17日、25日

静けさの中、イベントの成功を実感

青年部



1月12日、青年部は群馬県のとんぼらスキーパークでスノボイベントを開催しました。毎年恒例の行事で、部員たちの交流と親睦を図ることが目的で、今年も6名が参加しました。

当日は早朝5時30分に池袋駅に集合し、車で現地へ向かいました。道中では雪道が険しい場面もありましたが、安全運転で無事到着。ゲレンデに立った瞬間、みんなのテンションが一気に上がりました。スノーボードが得

意なメンバーも初心者も、お互いに教え合いながら滑り、全員が上達していく様子がとても印象的でした。

昼食以外にはほとんど休憩を取らず、アクティブに楽しんだ一日。帰りの車内では疲れから全員ぐっすり眠っていましたが、その静けさの中で、イベントの成功を実感しました。

特に印象深かったのは、今回初めて参加した部員がいたことです。新しいメンバーが加わることで普段の

交流がさらに活性化し、イベント全体がより盛り上がりました。「自然の中で仲間とリフレッシュできて最高だった」「来年はもっと仲間を集めたい」という感想もあり、次回の開催に向けた期待感も広がりました。こうしたイベントを通じて部員同士の絆を深め、青年部活動をさらに活発にしていきたいです。ぜひ次回もご参加ください!

唐澤一貴青年部長(企業交流分会)

つぶやき

被爆者の皆さんの 勇気ある行動に拍手

今年も戦後被爆80年です。昨年10月、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞しました。私たちに希望と勇気を与える素晴らしい出来事でした。被爆者の皆さんが被爆の実相を世界に広げ、核兵器禁止条約へのうねりを作り出してきた活動が認められました。

受賞式で代表の田中照巳^{てるみ}さんが筆舌に尽くしがたい過酷な被爆体験を語り「人類と核兵器は共存できない、共存させてはならない」と訴え、改めて核の非人道性を世界に発信しました。核兵器は二度と使用させてはならないと言う非常に強いメッセージになったと思います。

世界の人が平和実現を目指し、反核運動を進めている中、日本政府はいまだに核兵器禁止条約に署名も批准もしていません。世界で唯一の被爆国である日本が何故、とても残念でなりません。

ノーベル平和賞をどう生かすのか、日本政府の姿勢が厳しく問われます。核抑止論では平和は守れません。改めて日本政府に核兵器禁止条約への参加を強く求めます。(M・M)

地域の方も多数来場 餅つき大会

1階餅つき受付担当
伏見智美女性の会事務局長(上池袋本町分会)

12月22日にもちつき大会を開催しました。コロナが落ち着き、館内での飲食ができるようになったことで、多くの方にご来場いただき、参加者は150人を超えました。土建マスコットのどけんたろう君も来てくれ、会場を盛り上げました。

私は1階でお餅の受け渡しを担当しました。高齢の方のために靴を履く椅子を用意し、1階でも飲食できるようにしました。次回は事前に準備したいと思います。もち米やあんこ、きな粉は品質の良いものを選び、「美味しかった」との声をいただき嬉しかったです。スタッフが高齢者に寄り添う姿も見られ、ちょっとし



子ども用の杵で、小さい子もお母さんと一緒に餅つき体験

た触れ合いが、地域との繋がりに発展すると思えました。

今回見つかった課題を、次回のもちつきや子ども食堂に活かしたいと思います。スタッフの皆さま、たろう君、お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

3階豚汁を担当
間辺美恵子通信員(南池袋分会)

当日は好天気に恵まれ、早朝から好調な出しとなりました。餅つきは1階、豚汁と子供工作は3階とそれぞれに分かれて作業を開始しました。

私は3階の豚汁係りです。早速若手の会員さん達がテンポよく野菜を刻みます。一気に豚汁への期待感が高まってきました。大鍋2杯分の大量な具材を使って調理してくださるのは2人の栄養士さんです。テキパキと手際よく味付けも見事、おいしい豚汁が出来上がりました。つきたてのお餅と出来立ての豚汁にお客さんは大喜びです。たちまち会場は「おいしいね」の声と笑顔に包まれました。200食用意した豚汁もあれよあれよと完食です。今回は町会や学校関係者などたくさんの方々が来場し、皆さんに喜んでいただけた



どけんたろうくんは子どもたちに大人気

ことを何よりも嬉しく思っています。子供工作のキャンドルやぼんぼり作りも、子供さん達にとっても人気でした。心温まる1日に感謝しています。

椎名町分会 ゴルフ部 遂に始動!



1月26日、椎名町分会ゴルフ部で初めてゴルフコースを回ってきました。今回ラウンドしたのは、栃木県にあるディアレイク・カントリー倶楽部です。河川敷コースとは違い、景色豊かな山岳コースでの実践となりました。まだ慣れないこともあり、今回は仲間の協力をもらいつつ、2組6人の開催となりました。最初はグリーンが凍っていたり、朝陽でボールを見失ったりと大変なスタートでしたが、時間がた

つにつれて慣れてきました。昼食をほさみ、後半はナイスショットも飛び出し大盛り上がり。初めての取り組みでしたが、大成功を収めることができました。

参加した人からは「難しいし、ボールがどこ行ったか分からない場面が多かったが、当たった時の爽快感が最高」「思ったよりボールをなくさずに済んだ。またやりたい」などの感想がありました。



大自然バックの山岳コースで存分にゴルフを楽しむ参加者たち

今後も月一の練習と定期的なラウンドを行っていく予定です。次回は5月ごろを予定しています。

組合という、なかなかいいイメー

ジがない人も多いと思いますが、楽しいこともあるんだと分会の仲間へアピールしていきたいです。

田中承宏 椎名町分会教宣部長

能登災害復興支援 ボランティアに参加

村田勝利 支部書記

12月5日～6日に石川県能登半島への復興支援ボランティアへ参加しました。本部石川副委員長、同吉川書記に同行しました。

4日の午前8時に北支部会館を車で出発し、同日の午後6時に石川県鳳珠郡能登町小木の九十九湾湾口に位置する「漁火ユースホステル」に到着し一泊しました。上信越道、北陸自動車道、能越自動車を経由し珠洲道路を北東へ進み能登町小木まで、途中休憩をはさみ約10時間の行程でした。

宿舎のスタッフから夕飯時に色々な話を聞きました。被害の大きかった珠洲市では、ふるさとを復興させ、我が家に戻りたいと望む避難民の願いを無視するように、金沢への移住を行政は勧めている。それは、壊れた家を修繕、再建するための公的補助金の額にも露骨に顕れている。能登半島を縦貫する新幹線を建設する計画があるが、それは復興のためではなく、人の住まなくなった半島の先端に基地のような施設をつくるためではないかと危惧している。能登半島はどうなるのだろうと嘆息する様子が心に残りました。

翌日は、輪島のボランティアセンター（以後ボラセン）へ、富山湾側の能登から1時間半をかけて、半島の反対側へ移動しました。輪島市近辺の宿泊施設は、営業を再開する施設が少なく、公共の復旧工事に従事する労働者たちが優先されるため、ボランティアは、被災地から離れた場所に宿泊先を求めなくてはならないのが現状です。

輪島キリコ会館内のボラセンでは、輪島市社会福祉協議会のスタッフたち



こうした陥没した道路がまだまだ多くありました



泥かぎに使った道具を作業後に用水路で洗うボランティアたち

が、ボランティアに対応しています。ほとんどが20代前半のスタッフたちで、輪島港から吹く激しい寒風の中を動き回り、ボランティアたちを丁寧にフォローしてくれます。

私たち3人は、他の3人と6人でチームを組んで、その日の作業をするよう指示されました。

最初に依頼されたのは、仮設住宅から仮設住宅への引っ越しでした。ボラセンのすぐ近くの仮設住宅から、同じくすぐ近くの仮設住宅へ、冷蔵庫と洗濯機とテレビ、中型のメタルラックをボランティア用の軽トラで運びました。プレハブ型の仮設住宅から二階建てのアパートタイプの仮設住宅へ、内装も病室のようなワンルームから、普通の1DKへの引っ越しでした。6畳ほどの無機的一室に、最小限の家具と長期間にわたり住み続け、引っ越しで住環境は改善されたとは言え、なお仮設住宅に住まざるを得ない荷主さんの思いに触れ、震災後1年という時間の重さを改めて感じました。

引っ越しは、男性6人の手によってあっという間に終わり、一度ボラセンへ戻ってから、次に民家の泥かぎを依頼されました。

すでに現地で作業する別班と合流しての作業で、引っ越しと違い、こちらは大変な重労働でした。今年の9月に発生した豪雨により家屋の敷地に流入した土砂をスコップですくい、土嚢袋に詰めて敷地外へ運び、トラックで災害廃棄物処理施設へ運びます。私はスコップで泥をすくい土嚢袋につめる作業を担当しました。当日は運よく雨は降りませんでしたが、大量に水分を含んだ土砂は粘質で重く、長靴やスコップにもこびりつき、作業をより過酷にしました。(次号に続く)